



■被災地出張授業

2016年 12月9日

楽しく働くには

—日本の海運業と仕事について—



講師：武藤 光一 幹事(商船三井 取締役会長)

2016年12月9日、IPPO IPPO NIPPON プロジェクトによる被災地出張授業を、明治29年に創設された全国でも屈指の伝統水産校であり、航海技術や機関工学も学べる宮城県水産高等学校で行った。今回は、武藤光一幹事が講師を務め、全校生徒を前に日本の海運業と楽しく働くことについて語った。

海運業は日本を支える 縁の下の力持ち

日本は海に囲まれた海洋国家です。国土は狭いのですが、排他的経済水域の面積は世界で第6位の広さがあります。また、日本の貿易に占める海上貨物の割合は、重量ベースで99.7%、金額ベースで76% (120兆円) となっています。特に日本の石炭、原油、天然ガスは、ほとんどを輸入に頼っており、外航海運がなければ日本のエネルギー確保はあり得ません。海運業は日本を支える縁の下の力持ちなのです。

資源、エネルギーを輸入に依存する日本は、その経済安全保障上、いざというときに備えて、日本籍外航船と日本人外航船員の最低限の確保が必要です。しかし、日本籍外航船も日本人外航船員も、

人手不足で危機的な状況です。日本政府も危機感を持ち、海運税制等で最低限の確保策を導入していますが、世界標準からは遅れていて不十分なのが現状です。

海運業はさまざまな産業とのかかわりを持っているので、海運業の発展によって多くの産業も発展します。海を越えて経済や生活を支える資源やエネルギーを運ぶ方法は、海運のほかにはありません。それだけに、グローバル化の中ですますます重要になる成長産業であり、人生をかけるに値する仕事だと私は思います。

目的意識を持たば 仕事は楽しくなる

皆さんは、やがて社会に出て働きます。では、何のために働くのでしょうか。「3人のレンガ職人」という寓話があります。ある町はずれの建築現場で3人のレンガ

職人がレンガを積んでいました。そこを通りかかった人が、彼らに「何をしているのか?」と尋ねたところ、1番目の職人は「レンガ積み」に決まっているだろうと答えました。2番目の職人は、「家族を養うために働いているのさ」と答えました。3番目の職人は、「歴史に残る偉大

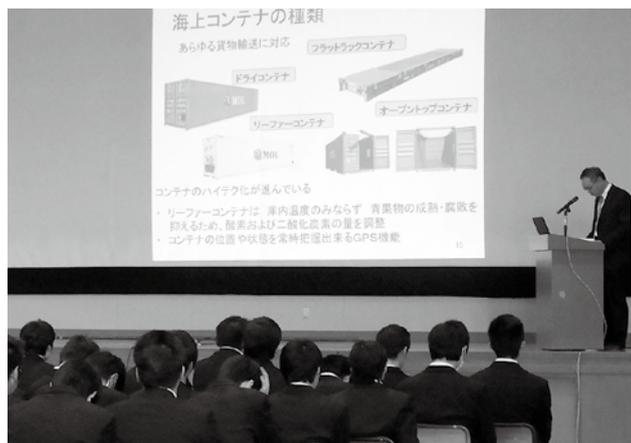
な大聖堂を造っている」と答えました。

これは何を意味するのか。1番目の職人は、何の目的意識もなしに働いています。2番目の職人は、生活費を稼ぐのが目的です。3番目の職人は、後世に残る事業で世の中に貢献することが目的です。仕事は目的意識次第で、つらくも楽しくもなります。3番目の職人のように、目的意識をしっかり持って、積極的に仕事にかかわることで、仕事は楽しくなるはずなのです。

2016年春の褒章で、福島県郡山市の折笠久夫さんというブロック職人が、黄綬褒章を受章しました。57年の職人歴を持ち、造ったブロック塀は東日本大震災でもびくともしなかったそうです。誇りを持って楽しく仕事をしたからこそ、完成度の高いものができたのでしょう。それによって社会に貢献して、人々から感謝されることも、立派な仕事の目的の一つです。

仕事の究極は 人のために尽くすこと

アメリカの心理学者アブラハム・マズローが、人間の欲求を5段階の階層で理論化した「マズローの欲求5段階説」というものがあります。人間は最初のうち、低次の欲求である「生理的欲求」「安全欲求」「社会的欲求」によって仕事をします。しかし、仕事をするうちにそれだけ



では満足できなくなり、高次の欲求である「尊厳的欲求」「自己実現欲求」が仕事の動機になります。つまり、仕事をするうちに「自分が集団から価値ある存在と認められ、尊重されたい」「自分の持つ能力や可能性を発揮して、創造的な仕事をしたい」という欲求が生まれるのです。皆さんにも、「自分は何のために働くのか」を常に考えてほしいと思います。

私は、働くことは人生そのものであり、充実した人生を送るためのものだと思います。その上で私は、仕事の究極は人のために尽くすことだと考えます。人に喜んでもらうことは大きな生きがいであり、それが人間らしく生きることにつながる

はずです。

真心や思いやりを持ち 人々に貢献する

私が座右の銘としている「忠恕」という言葉があります。中国の思想家の孔子が唱えた言葉で、人間の最も本能的で基本的な徳を表します。それは、人間が自然に持っている真心や思いやりのことです。仕事をするにあたって、「忠恕」を大切にして、周囲の人々に貢献することが、結果として幸せな人生をもたらすのではないのでしょうか。

最後に、私が昔から心がけている教訓をお伝えします。かつての海軍兵学校の

「五省」という教えです。「至誠に悖るなかりしか」は、真心に反する点はなかったかということ。「言行に恥づるなかりしか」は、言行不一致な点はなかったかということ。「氣力に欠くるなかりしか」は、精神力は十分であったかということ。「努力に憾みなかりしか」は、十分に努力したかということ。「不精に怠るなかりしか」は、最後まで十分に取り組んだかということです。こうして自らを省みながら、目的意識と信念を持って努力を続ければ、仕事は楽しくなるし、必ず成果が生まれます。皆さんにも、社会に出て楽しく働いて、社会に貢献してもらいたいと思います。

質疑応答

Q 自分の仕事に対してどんな誇りを持っていますか。

A 海運を通して日本や世界の人々に貢献する商船三井の一員であることに誇りを持っています。会長として、従業員をはじめ多くの人を幸せにしたいと考えています。また、経済同友会の一員として、さまざまな提言活動等を通し

Q 若い船舶職員を育成するためにどのようなことが必要だと思いますか。

A 若い人のやる気をどうやって引き出すかが大事です。その人が、先ほどのマズローの欲求段階のどれを求めているのか、モチベーションを見極めてリードしていくことが必要です。人を動かすとはそういうことだと思います。



て社会に貢献できることも私の誇りです。

生徒の感想

●お金だけではなく、仕事に対する目的意識を違った見方ととらえ、人のために仕事ができるようになりたいと思った。また、基本も忘れずに、気を引きしめていきたい。

●日本の資源は、海運でほとんど運んでいることを知り、海運業はなくてはならないものだということが分かりました。私も船の仕事をしたと思っていて、多くの人の役に立ちたいと思っています。

●自分の欲求を満たしていき、さらに上の欲求を目指して、「自分のため」から「人のため」に働きたいと思えるようになりたいと思います。

●今、海運業で働く人が激減し高齢化が進んでいることを知り、自分も仕事を覚え、日本の海運業を支えていきたいと思いました。

●「忠恕」という言葉を初めて聞きましたが、とても良い言葉だと思いました。私はたくさんの人の役に立てるような職業に就きたいと思っているので、この言葉を心にとめ、他人のこともよく考えたいと思いました。

●将来は航海士になり、最終的には船長になりたいので、今日の講義の「楽しく働くためには」を元に、これから先も頑張っていこうと思います。

●父と兄が海運業で働いているので、話を身近なこととして聞くことができました。日本の産業が海運業に支えられているにもかかわらず、海運業に勤める人の数が減少傾向にあるというのは、かなり深刻な問題だとあらためて感じました。そして、海運業というのは期待の高い職業だとも感じました。自分に与えられた仕事にどう向き合うかが大事だと学び、向き合い方次第では、有意義な時間が過ごせるのだと思いました。